

R6年大豆栽培農事メモ(第1号)

令和6年5月17日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

大豆栽培の3大ポイント ～収量目標 250kg/10a～

- ①排水対策の徹底
- ②pH 矯正と土づくり
(地力に応じた施肥)
- ③適正な播種

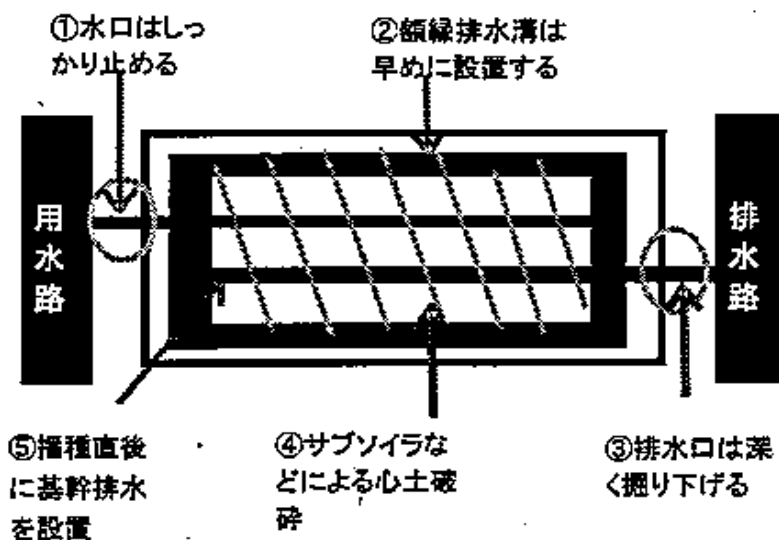


1. 播種前の条件整備

(1)排水対策の徹底

大豆は湿害に弱い作物です！
排水対策を徹底しましょう！

- ①用水等からの漏水による湿害を防ぎ、碎土率を高めるため額縁排水溝を設置する。
- ②麦跡で大麦播種前施工の額縁排水溝を利用する場合は、必ず点検・補修を行う。
- ③圃場内に数本の縦方向の排水溝を設置し額縁排水溝と連結させ、排水性を高める。
- ④圃場内に水が溜まりにくくするため、サブソイラーによる心土破碎を行う。



トレンチャーによる額縁排水溝の設置

排水性の向上は出芽・苗立ちの安定だけでなく、降雨が続いても水の引きが早いいため
培土や除草剤散布などの作業タイミングを逸することが少なくなり効果も高まります。

(2)土壌改良資材の散布

大豆は中性の土壌(pH6.0～6.5)を好むので、**耕起前に石灰質資材を施用**し、大豆栽培に適した土壌にしておく。

肥料名	施用時期	施用量(kg/10a)
苦土石灰 または 転作エース または カキ鉄エース	耕起前	100
BB 新転作エース(大豆用)		80

苦土や石灰分の補給だけでなく、**根粒菌の活性を促進**するためにも必要です。

(3)種子消毒の徹底

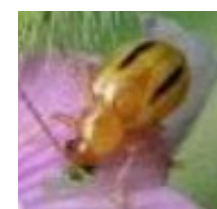
播種時から病害虫を防除するため、**種子消毒は必ず実施**する。

薬剤名	適用病害虫など	使用時期	使用量	使用回数
キヒゲン R-2 フロアブル	紫斑病、苗立枯病 タネバエ、ハト、カラス	は種前	乾燥種子 1kg 当たり 原液 20mL 塗抹処理	1回
クルーザーMAXX	紫斑病、苗立枯病(ピシウム菌)、茎疫病、黒根腐病、リゾクニア根腐病、 白絹病、フタスジメハムシ、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類	は種前	乾燥種子 1 kg 当たり 原液 8mL 塗抹処理	1回
	ハト、キジバトによる 種子食害忌避			

クルーザーMAXX: 殺虫効果と殺菌効果を兼ね備えており、
種子処理1回で初期害虫、紫斑病に加え、湿害によって助長される土壌病害に効果があります。

○フタスジメハムシ

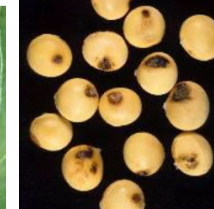
成虫は葉、子葉、さや、茎などを食害
幼虫は根粒菌を食害する



成虫(5～7mm)



食害痕(葉)



被害

○茎疫病



○白絹病



裏面も
ご覧ください

2. 適正な播種作業の実施

(1)耕起・整地

苗立ち、出芽揃いの向上と除草剤の効果を高めるため、**碎土は低速走行・ロータリー高回転で行う。**土塊の大きさは3cm以下、耕起深は13～15cmとする。

(2)播種

①**好天日に耕起・播種・覆土を1日で終える**ように努める。

※降雨により土壌水分が高い場合、無理な作業はせず、乾いた状態で実施する。

②播種の深さは3cm 程度とし、深播きはしない。

③畝立同時播種機を使用する場合は、低速で行い、畝立てと覆土の精度を高めるとともに、溝の接続を行うこと。

④ハト害や発芽不良で3株以上欠株が続く場合は追い播きや補植をする。

※追い播きは子葉展開期まで、補植は初生葉展開期までに行う。

⑤**麦あと圃場での播種は、大麦刈取り後、圃場が乾いたら速やかに行う。**

品種	播種時期	目標 栽植本数 (本/10a)	播種量 (kg/10a)	【参考】目皿方式・大粒種子使用・ うね間80cmの場合の調整方法		
				スプロケット		使用目皿
				目皿側	車輪側	
里のほほえみ	6月1日 ～6月10日	15,000 目安12本/m	6～7	10	13	B-33
	大麦収穫後 ～6月25日	18,000 目安14本/m	7～8	9	14	
エンレイ	5月25日 ～6月5日	12,000 目安10本/m	4～5	11	11	
	6月5日 ～6月15日	14,000 目安11本/m	5～6	11	13	

➡ 目標栽植本数になるようにスプロケットを組み合わせ、播種量を調整しましょう！！

「里のほほえみ」播種時の留意点

- ①エンレイより株当たり着莢数が少なく、茎が太くなりやすいので、**播種量を増やし苗立ち数を多くする。**
- ②**早播きは過繁茂となりやすく青立ちを助長**するため、適期播種に努める。
- ③エンレイより粒径が大きいため、**目皿方式の播種機は事前に目皿を確認・交換**する。



アップカットロータリーによる
耕うん同時うね立て播種

3. 地力に応じた基肥施肥 大豆の作付け回数の多い圃場は、地力が低下している事に留意する。

	肥料名	時期	施肥量(kg/10a)	備考
基肥	BB大豆一発くん N25 (25-13-13)	耕起前 または 播種時	30	—
	BB松任すくすく1号 (10-25-16)			低地力圃場では、 更に10kg/10aを全 層施肥する。
	BBエコ028号 (10-12-8)			

※麦あと圃場も、基準どおりの量を施肥してください。
※一発で規定の施肥量が入らない場合は、あらかじめ一部を全層施肥とする。

4. 播種直後の除草剤散布の徹底

不意な降雨で散布時期を逸しないように除草剤散布は播種当日に実施する。

除草剤名	適用 雑草	使用時期	10a 当たり使用量	使用 回数	備 考
クリアターン細粒剤 F	一 年 生 雑 草	は種直後 (雑草発生前)	4～5 kg	1 回	・規定量を守り、 均一に散布する。 ・土が湿っている 状態で散布する。 ・周辺圃場への飛散や 重複散布に注意する。 ・散布直後の多量の降雨 は薬害を招くため、注意 する。
クリアターン乳剤			薬量 500～800mL (希釈水量 70～100L)		
エコトップP乳剤		は種後出芽前 (雑草発生前)	薬量 400～600mL (希釈水量 100L)		
クロロIPC		は種後発芽前	薬量 200～300mL (希釈水量 70～100L)		
プロールプラス乳剤		は種後出芽前 (雑草発生前)	薬量 400～600mL (希釈水量 70～150L)		

※エコトップP乳剤＋クロロIPCは重複散布で薬害が生じやすいので特に注意する。

5. 難防除雑草の発生に注意

近年、帰化アサガオ類をはじめ、防除が難しい雑草による大豆の減収被害が広がりつつあります。多発すると除草剤での防除が困難なため、見つけたらすぐに根から抜き取るなどし、蔓延を防ぎましょう。



マルバルコウ
→農道や畦畔から侵入し、
繁茂すると収穫作業が困難となる。



イヌホオズキ
大豆播種前より出芽がみられ、播種後1ヶ月間に出芽が集中する。
茎や果実に水分を多く保持していることから、収穫時における大豆汚粒発生の原因となる。

既に多発しているほ場には、専用の除草剤体系が有効です（上記除草剤⇒パワーガイザー⇒アタックショット）
詳細についてはJAの営農担当者または石川農林総合事務所農業振興部にご相談下さい。